

平成29年度特定非営利活動法人地域情報モラルネットワーク

平成29年度の事業報告

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

平成29年度は、情報化社会の発展を図る活動7件と、社会教育の推進を図る活動7件である。これらの14件の事業は特定非営利活動に係る事業で、その他の事業はなし。

事業名（定款に記載した事業）：情報化社会の発展を図る活動

(1) 具体的な事業内容：「neuis 学習会」

実施日

第1回 平成29年7月23日（日）14時30分から16時00分

第2回 平成29年8月20日（日）14時30分から16時00分

第3回 平成29年8月27日（日）14時30分から16時00分

会場：みやぎ NPO プラザ第2会議室（7月23日）

みやぎ NPO プラザ第1会議室（8月20日、27日）

仙台市宮城野区榴ヶ岡5

主催：特定非営利活動法人地域情報モラルネットワーク

第1回「十善と十悪について」

話題提供者：NEUIS 会員 深澤 ひろ美 氏概要：文部科学省は、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から道德の時間を「特別の教科 道德」（道德科）に変更し、より力を入れていくとしています。道德科の授業では、いじめの問題への対応や我が国の伝統と文化、情報モラルに関する内容などの充実を図るといった特徴があります。

【「特別の教科 道德」の内容構成】 道德教育の内容として、以下の4つの視点から具体的な内容項目を提示した。

- A 主として自分自身に関する事
- B 主として人との関わりに関する事
- C 主として集団や社会との関わりに関する事
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事

今回は、A 主として自分自身に関する事

○善悪の判断、自律、自由と責任（低、中、高）

仏教の基本である「十善と十悪」について学んだ。

十善

- ①不殺生（ふせつしょう）②不偷盗（ふちゅうとう）③不邪淫（ふじゃいん）

④不妄語（ふもうご）⑤不両舌（ふりょうぜつ）⑥不悪口（ふあつく）
⑦不綺語（ふきご）⑧不貪欲（ふとんよく）⑨不嗔恚（ふしんい）⑩不邪見（ふじゃけん）

十悪（十不善）

①殺生（せつしょう）②偷盜（ちゅうとう）③邪淫（じゃいん）
④妄語（もうご）⑤両舌（りょうぜつ）⑥悪口（あつく）
⑦綺語（きご）⑧貪欲（とんよく）⑨嗔恚（しんい）⑩邪見（じゃけん）

受講者：15名

第2回「思いやりの心について」

話題提供者：NEUIS 会員 深澤 ひろ美 氏

今回は、B 主として人との関わりに関すること

そこに含まれる思いやりの心について

思いやりのある人は、いつも笑顔で優しく、正直で誠実で、一緒に居て安心感があり、感謝され、尊敬され、寛容な人。信用・信頼される人。

思いやりのない人は、自己中心で自分の目的・欲望が最優先、自分に直接関係ないことには無関心で、気分次第で態度がコロコロ変わる、イライラして人にあたる等、一緒に居ると気分が悪くなるような人。

ストレスから起こる怒りは、健康にも悪影響を及ぼす。

思いやりの心は、脳の前頭前皮質の左側を活性化し、幸福を感じられることが実験の結果わかった。

人を思いやる時、相手の反応を期待しないこと。（期待通りの反応がないとき、ストレスを感じ、不満や怒りにつながる。）

特定の人だけ思いやるのは、執着や欲望の心が強まり新たな苦しみを作るので、気を付けよう。

ひどいことをされても広い心で受け止めて許す、寛容な心を育てよう。

思いやりの心は、自分の心に平安や幸福感をもたらす。

受講者：15名

第3回 「日常生活で役に立つ仏教の教えについて」

話題提供者：NEUIS 会員 深澤 ひろ美 氏

・仏教の教えは、耳で聞いて、それを自分の場合に置き換えてよく考え、さらに日常生活

活で実際に使ってみるとい^{もんししゅう}う、聞思修が大事と説かれています。

・悪いことが起こったとき、因果の法則から考えてみると、過去、過去世で自分が悪い行いを積み重ねてきたという原因によって悪い結果が今現れたのだと考え、将来楽や

幸せを願うのなら、今この瞬間から身口意（体と言葉と心）で善い行いをすることが大切です。

・また、輪廻の苦しみから考えてみると、無数の輪廻を繰り返してきた中で、ある時は激しく憎む「敵」だった者が、次の生では自分を愛する「味方」となって生まれ、また次の生では敵になったり、とコロコロ変わってどれが本当にその人なのか決めることができません。自分の心もコロコロ変わり、一時の感情で「敵」「味方」と区別するのはおかしいことだと考えるのです。

・「怒りや憎しみ」は役に立つか？と自分の心を分析してみると、「怒りや憎しみ」は食欲、安眠、幸福感を失くし、心身に不調をもたらすので、決して役には立たないことがわかります。

・「笑い」が体の免疫機能を活性化し、自律神経の働きを安定させる効果があると実証されています。

・「思いやりの心」を育てることで、心に平安や幸福感が生まれることをよく味わいましょう。

受講者：15名

neuis(Network for Ethical Use of Information in Sendai)

(2) 具体的な事業名：「インターネット安全教室 講師トレーニング 仙台」

実施日：平成29年9月 9日（土）13：30～17：10

平成29年9月10日（日）10：30～16：00

会場：東北工業大学一番町ロビー2階（仙台市青葉区一番町1-3-1 TMビル）

主催：独立行政法人情報処理推進機構・NPO 日本ネットワークセキュリティ協会

共催：NPO 法人地域情報モラルネットワーク

受講者：21名（学生6名、neuis 会員5名、一般10名）

受講対象者：「インターネット安全教室」の講師をされる方

地域で情報セキュリティ普及啓発に関わる方

パソコン教室等で講師として活動中の方や講師を目指したい方

【概要】受講者に、講師としての知識・テクニックを習得していただくためのトレーニングを行った。今回は、実際にインターネット安全教室の講師経験者、専門の方が3名も参加していただいた。

(3) 具体的な事業名：「インターネット安全教室」

実施日：平成29年11月11日（日）14：00～16：10

会場：東北工業大学一番町ロビー2階

主催：特定非営利活動法人地域情報モラルネットワーク・独立行政法人情報処理推進機構

共催：NPO 日本ネットワークセキュリティ協会、東北工業大学工学部情報通信工学科

角田研究室

後援：情報セキュリティ政策会議、警察庁、宮城県警察本部、宮城県教育委員会、
仙台市教育委員会、TBC 東北放送、河北新報社

従業者の数：2名（neuis から）宮城県警察本部1名

受益対象者の範囲および人数：仙台市民、宮城県民 約35名

東日本放送より取材を受ける

【主催者の所感（運営・要望）】

参加者は総勢で35名、定員50名に対して70%の達成率でした。インターネット安全教室の講師は今回、共催団体の角田研究室の研修生が担当した。回収したアンケートは22名で、財布より大事！ ややわかりやすい、わかりやすい82%、やや参考になった、参考になった68%、騙されないで！ ややわかりやすい、わかりやすい73%、やや参考になった、参考になった76%、警察からのお話 ややわかりやすい、わかりやすい76%、やや参考になった、参考になった81%という結果になった。

（4） 具体的な事業名：第12回情報教育シンポジウム「子どもたちのいじめ問題を考えてみよう」

コーディネータ 小島正美氏（NEUIS 理事長）

講師：阿部伸一氏（NEUIS 副理事長）、深澤ひろ美氏（NEUIS 会員）

実施日：平成29年11月25日（土）14時30分

会場：仙台市戦災復興記念館 4階第1会議室

主催：NEUIS

後援：宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、TBC 東北放送、河北新報社

参加者 24名

河北新報社から取材を受け、12月5日付「河北新報」朝刊18面に掲載される。

【概要】第8回情報教育シンポジウム（平成25年11月23日）において、情報社会における“いじめ”問題について、ディスカッションしました。平成25年は文部科学省から「いじめ防止対策推進法」が公布され、4年過ぎました。現在においても、“いじめ”問題は解決されていない状態です。そこで、もう一度、この問題について話し合ってみようということで企画しました。今回は、1部では教育経験の長い、阿部伸一氏に、“いじめ”の認識の移り変わりについて講演していただき、深澤ひろ美氏には保護者という立場から、家庭での重要な役割について講演していただきま

した。2部では、集まっていた皆様で、地域、学校、家庭のそれぞれの立場において、“いじめ”に対してはどのように対応していけばよいかを話し合いました。いじめ問題を解決するためには、地域、学校、家庭での連携が必要であることを確認しました。

(5) 具体的な事業名：宮城県高度情報化推進協議会助成金事業

確定助成金：79,920円

e-Learningを活用した情報モラルに関する講習会モデルの構築

主体的な実施者：福井恵子氏（NEUIS理事）

実施日：平成29年10月1日～平成30年1月31日（計123日間）

（開催期間：平成29年12月1日～平成30年1月19日（計50日間））

実施場所：クラウドネットワーク

主催：特定非営利活動法人地域情報モラルネットワーク

後援：宮城県高度情報化推進協議会・河北新報社・TBC東北放送

e-Learningを実現するための学習管理システムへの登録者：25名

e-Learning受講者：20名

Webディスカッションの参加者：11名

【概要】NEUISが蓄積してきたモラル・セキュリティの講習会内容をe-Learning用

コンテンツに作成して公開提供し、いつでも・どこでも・誰でも受講を可能とする。

e-Learning講座内には、直面する情報セキュリティ・情報モラル等の課題に関して、受講者全員が意見を出し議論し合えるオンライン編集の場を設ける。ここには、当会よりファシリテーターを置き、問題解決に至る円滑なディスカッションが行えるよう支援する。e-Learningを活用し、受講者間でのディスカッションによる問題解決を行う講座を構築するものである。

【成果】課題解決のためのWebで行うディスカッションでは3つのテーマを設けた。

議論参加者は幅広い層から11名程度であったが、短期間に様々な視点からの意見が出された。いつでも・どこでも・誰でもというe-Learningではあるが、対象者を絞り地域を限って事前の講習会を行う、などを取り込むことでハードルは下げられるのではないかといった方向性がみえた。Webで行うディスカッションという試みは、ディスカッションにより指摘されてたメリット・デメリットをふまえて、今後の活動の方向付けになったものと思われる。

(6) 具体的な事業名：「インターネット安全教室」

実施日：平成30年2月16日（金）13:30～15:00

会場：東北生活文化大学100周年記念棟

主催：特定非営利活動法人地域情報モラルネットワーク、東北生活文化大学・東北生活

文化大学短期大学部

共催：独立行政法人情報処理推進機構、NPO 日本ネットワークセキュリティ協会

後援：サイバーセキュリティ戦略本部、警察庁

スタッフ：3名（東北生活文化大学短期大学部）

参加者総勢：35名

【主催者の所感（運営・要望）】 東北生活文化大学および短期大学部の教職員が対象だったが、教育機関における情報の扱いについて、貴重なお話を伺うことが出来た。個人としてのセキュリティ対策とともに、大学としての組織的な取り組みの必要性を感じる内容であった。会場に人が入りきることか心配していたが、当日所用の教員が多く、思いのほか参加人数が少なかったのは残念である。アンケート結果に、学生にも聞かせたいという感想もあったように、今後、学生へ向けたセキュリティ教育も課題である。

（7）具体的な事業名：地域からの要請による情報教育事業

謝金（受取事業収益金）：20,000円

日時：平成30年3月10日（水）午後2時～4時

場所：生涯学習支援センター 第2セミナー室

対象：一般市民、県民

演題：情報化社会におけるスマホの安全・安心な利用法

講師：小島正美（neuis 理事長）

受講者：20名程度

【概要】近年、LINE, Twitter, Facebook といった SNS (Social Networking Service) の利用が急速に増加しています。SNS で大切な個人情報が公開され、プライベートな写真が公開されるなどの被害も増えています。どのようにしたら、インターネットトラブルから身を守ることができるかを、IPA で提供しているビデオ映像、1) ほんとにあったセキュリティの話「相手も自分も傷つける」2) 陽だまり家族とパスワード～自分を守る3つのポイント～3) その警告メッセージ、信じて大丈夫？ブラウザの“偽警告”にご用心！を使い、またクイズを入れながら2時間程度、解説した。最後に、質問を受けた。大変基本的な質問が多く、まだまだ普及活動の必要性を感じた。

事業名（定款に記載した事業）：社会教育の推進を図る活動

（1）具体的な事業名：平成29年度「第1回全国連絡会議」に参加

平成29年6月23日に東京で JNSA の全国連絡会議が開催され、neuis から小島理

事長が参加しました。交通費は主催者 IPA,JNSA 側で負担。

日時：平成29年6月23日（金）13：30～17：00

会場：TKP 品川カンファレンスセンター4階バンケットホール4 J

東京都港高輪3-26-33 京急第10ビル

開会挨拶 IPA技術本部セキュリティセンター

横山 尚人氏

情報セキュリティ10大脅威

インターネットを安全に利用するために～サービスや設定を知りたいみなさまへ～安

心ネットづくり促進協議会 <http://good-net.jp/>

倫理教育が大事

講演「IoTに対する不安と期待」

講師：アマゾンウェブサービスジャパン： 松本 昭悟氏

「モノ」がインターネットを通じてセンシングデバイス—ネットワークコミュニ
ティ—処理・分析を実行するサーバ

AIの活用ユビキタス社会からIoT社会との違いが分かりました。今後は、IoT
のセキュリティが重要となる。また、分析処理をする過程で、AIの利用は、従来人
間が行ってきた職業分野まで入り込むことが考えられる。IoTと人間の共生、共存
社会が課題となるのではないだろうか、ということを講演者との話し合いでも感じ
ました。

グループ討論

3つのテーマ「YouTuber」、「メリカリ」、「SNOW」概要、メリット、デメリット、
対策などを、各グループでまとめて発表。

私のグループは、「YouTuber」について YouTube 上で、独自に製作した動画を継続
的に公開する人物や集団のこと。中学生男子のなりたい職業ランキング第3位 実
際に、Youtuber として広告収入だけで生計をたてれるのは、日本で数十人レベル
なので、安易に YouTuber で儲けようとは考えないこと。動画を掲載する場合、個人
情報の流出も問題である。

(2) 具体的な事業名：平成29年度「第2回全国連絡会議」に参加

平成30年2月26日に東京で JNSA の全国連絡会議が開催され、neuis から小島理
事長が参加しました。交通費は主催者 IPA,JNSA 側で負担。

日時：平成30年2月26日（月）13：30～17：00

会場：フクラシア東京ステーション 5階 K 会議室

開会挨拶 IPA技術本部セキュリティセンター

横山 尚人氏
今年度の事業報告と SNS に関するアンケート実施報告

JNSA 事務局 林 佳子

講演「SNS 注意点に関する追加コンテンツのご紹介」

コンテンツの紹介 本川 祐治氏

SNS に関する地域の状況についての補足 工藤陽介氏

【意見交換】

今年度の反省点、今後の課題などについて一言ずつお願いします。

閉会挨拶 JNSA 事務局長 下村 正洋

終了後、懇親会に参加

インターネット安全教室でクイズを出すときに、参加者に考えさせるクイズの出し方が大変参考になった。

(3) 具体的な事業名：サイバー防犯ボランティア

実施日：平成 29 年 7 月末から 9 月末の 2 か月間

複数名の会員により、サイバーパトロールをし、児童の被害防止となるように、あらかじめ、宮城県警察本部サイバー犯罪対策室から、サイバーボランティアの通報要領についての説明を受けて実施。

平成 29 年 11 月 14 日、東北工業大学八木山キャンパス 1 号館 4 階で、警察庁生活安全局から地域情報モラルネットワークへ、サイバーボランティアによる児童被害防止対策に対して、感謝状の贈呈を受けました。同時に、東北工業大学工学部情報通信工学科角田研究室の研修生が感謝状を受けています。

平成 30 年 1 月 19 日 宮城県警察本部において、宮城県警察本部生活安全部サイバーセキュリティ統括官より、地域情報モラルネットワークへ、サイバー防犯ボランティア活動に積極的に取り組まれたことで、感謝状の贈呈を受けました。

(4) 具体的な事業名：2018 年「サイバーセキュリティ月間」キックオフサミット

(平成 30 年 2 月 1 日 (木) 13:00~17:00)

全国津々浦々・サイバーセキュリティ普及啓発に参加

(平成 30 年 2 月 1 日 14:00~14:50)

司会進行：小屋 慎吾氏 (豆蔵ホールディングス)

アシスタント：川島 夏海氏 (LAC)

全国の普及啓発団体

- ・北海道情報セキュリティ勉強会 (札幌市) 八巻正行氏
- ・地域情報モラルネットワーク (仙台市) 小島正美氏

- ・三島スマホ安心アドバイザー（静岡県三島市）石井幸子氏
 - ・パソコンボランティア Wing（大阪府堺市）吉田恵子氏
 - ・長崎県立大学（長崎県西彼杵郡^{そのま}）加藤雅彦教授
- Skype を使い参加

（５）具体的な事業名：マチノワブースに出展

実施日：平成30年2月24日(土)10:30～15:00

場所：仙台市市民活動サポートセンター 1階

午前の部

10:30～12:30 インターネットを使って、情報モラルを学ぼう！

実際に、Web 上で情報モラルを学ぶデモを行いました。

<12:30～13:00 昼食休憩>

13:00～14:00 インターネットを使って、情報モラルを学ぼう！

実際に、Web 上で情報モラルを学ぶデモを行いました。

14:00～15:00 いじめ問題を考えてみよう！

来場者と、「いじめ」問題についてディスカッションしました。

スタッフ4名（小島理事長、阿部副理事長、アルバイト2名）

来場者は、20名程度で、そのうちの半数近くが Web で情報モラルを学ぶ体験を行った。

（６）具体的な事業名：パレット取材による紹介

日時：平成30年3月23日（金）15:00～16:00

場所：仙台市市民活動サポートセンター

【概要】パレット5月号への市民ライター記載のインタビューを、市民ライターから受ける。

（７）具体的な事業名：日本コミュニケーション学会平成29年度東北支部 定例会で発表

日時：平成30年3月3日 13:00～16:20

会場：東北工業大学一番町ロビー 4F ホール

仙台市青葉区一番町 1-3-1 (TM ビル)

発表タイトル：子どもたちのいじめ問題とコミュニケーションとの関わり
～地域・学校・家庭において～

発表者：小島正美（NPO 法人地域情報モラルネットワーク）

会場は仙台なので、旅費不要

- プログラム： 12:40～13:00 受付
- 13:00～13:10 開会式 支部長挨拶 川内 規会
- 13:10～13:40 発表1. 五十嵐 紀子(新潟医療福祉大学)
- 13:40～14:10 発表2. 石橋 嘉一(青森中央学院大学)
- 14:10～14:40 発表3. 川内 規会 (青森県立保健大学)
- 14:40～14:55 休憩
- 14:55～15:25 発表4. 宮曾根 美香 (東北工業大学)
- 15:25～15:55 発表5. 小島 正美 (NPO地域情報モラルネットワーク)
- 15:55～16:15 支部会議
- 16:15～16:20 閉会式 大会実行委員長 宮曾根 美香

【発表概要】 NPO 地域情報モラルネットワーク主催の第12回情報教育シンポジウム、「子どもたちのいじめ問題を考えてみよう」で、KJ法を使い、地域、学校、家庭のグループ別で討論を行った。いじめ問題の解決には、共通して先生と児童・生徒とのコミュニケーション、親子間のコミュニケーションが重要であるということが出された。そのなかで、他者との対峙が、もっとも重要ではないかということになった。また、5歳児くらいまでに形成される情動を、健全に発達させるためには、乳幼児教育が重要であるという意見が、出された。これらを踏まえて、地域・学校・家庭では、どのように取り組むべきかを述べたい。

以上